



●色彩教材研究会主査より

こんにちは、主査の吉澤陽介でございます。
以前にもお伝えしました通り、当方は6月まで校務とプロジェクトの関係でなかなか時間が取れない状態でしたが、少し落ち着いてきましたので、これから「司令塔」として動きたいと思います。

本日は、「幹事会メンバー」についてお知らせします。幹事は昨年度から引き続き、山根千明さん、山本まゆみさん、渡邊裕美さんの3名に加えて、今年度より、榎芳栄さん、昆野照美さん、陣出久美子さん、鈴木章子さん、田森恭子さん、水野智子さんの6名が新加入しました。顧問はお馴染みの北島耀さん、永田泰弘さん、垣田玲子さんの3名。監事は井澤尚子さんの1名。主査の吉澤も含めて幹事会は合計14名の構成となります。遅めのキックオフになりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後、色彩教材研究会通信にて、主査から様々な展開をさせて頂きますが、近日「令和4年度秋の研究会大会」について告知を行う予定です。また、会員の皆様とのコミュニケーションをしたいと考えておりますので、yoshizawa@j.kisarazu.ac.jp まで、お気軽にメールをいただけますと幸いです。(吉澤)

●貴石の色・瑪瑙 (メノウ)

瑪瑙は、縦縞模様があるアゲートと模様がないカルセドニーに分かれていて、ポツアナーアゲートについて書いてみます。

瑪瑙は、成分は水晶に近く硬度は7なので硬めです。染色もしやすい石なので様々な色味があります。ポツアナーアゲートは、ナチュラルな色で落ち着いた茶色とモノトーンの色味が特徴の瑪瑙です。

瑪瑙の意味は世界と繋がりを持つ石と言われる、複雑な模様が一つの石の中に入り込んでいるので、自然界の芸術の石といわれ、ネガティブな心を修復する石とも言われます。

自然模様の配色にメッセージ性があることは驚きです。チームワークを結びつける石とも言われています。一つの色ではなく配色として、縦縞模様のモチーフの色味がエネルギーギッシュに感じるのは瑪瑙の石の意味に関係しているのだからだと思います。

(田森恭子)



●季語集の中の色名ー8

● 初秋の季語

白粉の花 (おしろいのはな)：オシロイバナ、漏斗状の花が咲く。

白萩 (しらはぎ)：稀に白い花があり寂しい感じである。

吾亦紅 (われもこう)：山の草で四五尺になる。燻んだ赤色の小花が集まって団子形に咲く。(我木高)。

雁来紅 (がんらいこう)：鑑賞用。四五尺になり葉が種類によって紅、黄、それ等の混じるもの等多彩である。

粟の黒穂 (あはのくる保)：粟の穂の中に病気に患って黒いのが混じるのをいふ。

● 仲秋の季語

白露 (しらつゆ)：露の浄らかさを美称した言葉。

紫雲英蒔く (げんげまく)：田甫の緑肥にする為の紫雲英 (れんげ) は秋に蒔いて置く。冬を越して春に花が咲く。

目白 (めじろ)：緑色で眼の周囲が白い小鳥。群れている。

黄ぎ魚 (きぎう)：鯰の型で小さい。鰭が硬くて痛い。淡水に棲み、不味な小魚である。(技ば地) (げばち) (ぎぎ)

(永田泰弘)